

令和6年度 姿川第一小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

人間尊重を基盤として、心身ともに健康で、自ら学び正しい判断力と実践力のある心豊かでたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

合言葉「なかよく かしく げんきに がんばる 姿一の子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校・家庭・地域が信頼し合い、相互に関わりながら充実した学校経営を実践するために「活力あふれる学校」「たくましく生きる力を育む学校」「共に伸びていく開かれた学校」を目指す。

児童にとって「通うのが楽しい学校」、教職員にとって「やりがいのある学校」、保護者にとって「信頼できる、通わせたい学校」、地域にとって「地域が参画できる学校」でありたいと考える。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

職員相互の信頼関係と協働性を基盤に、『地域とともにある学校』として、保護者や地域社会から信頼され、相互に連携・協力し合いながら、夢と希望を抱き、児童も家庭や地域も教職員も共に成長していく学校」を推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

（1）児童のよさや個性が発揮でき、互いに関わり合い・認め合い・励まし合いながら豊かな人間性を構築し、よりよく生きようとする力を育成する。 （心の教育の充実）

（2）単元を見通した授業展開を大切にし、学ぶことの基礎・基本の習得を図るとともに、それを活用して主体的に課題を解決する力を育成する。 （主体的・対話的で深い学びの実践）

・教材や1人1台端末等のICTを効果的に活用しながら「宇都宮モデル」（「はっきり」「じっくり」「すっきり」の実践

・高学年における学級担任間の積極的な授業交換を基本とした教科担任制の推進

（3）様々な活動を通して、達成感や成就感を味わわせることで、目標をもち、自ら学ぼうとする意欲を育成する。 （学ぶ意欲の高揚）

（4）基本的な生活習慣を身に付け、自ら健康や体力づくりに励み、自己実現のために、たくましく生きようとする態度を育成する。 （たくましさの涵養）

（5）特別な教育的支援が必要な児童一人一人が、自信と意欲をもって学校生活が送れるよう支援体制を強化し、適切な支援の充実に努める。 （特別支援教育の推進）

（6）地域の教育資源や資料等を活用し、体験的活動や交流活動を通して、郷土への愛情と誇りを育む学習の充実を図り、特色ある学校づくりの推進に努める。 （生き抜く力の育成）

（7）小中一貫教育・姿川地域学校園、魅力ある学校づくり地域協議会による地域や保護者との連携強化を図り、地域とともにある開かれた学校づくりを推進する。 （地域と協働した開かれた学校）

（8）教育公務員としての誇りと使命感を自覚し、サービスの厳正に努めるとともに、意欲をもって研修及び自己研鑽に励み、指導力の向上と誰からも信頼される教職員として主体性と想像力をもって職務に励む。 （教職員の資質・能力の向上）

（9）教職員の心身の健康の保持増進を図り、教育の質の向上と児童の健全で豊かな成長を目指すために、業務の効率化の推進と勤務時間を意識した働き方を推進する。 （教職員の働き方改革の推進）

【姿川地域学校園教育ビジョン】

発達段階に応じた教育活動を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、心豊かな子どもを育てる
～9年間の学びを通して～

4 教育課程編成の方針

【基本方針】

学習指導要領の趣旨を踏まえながら、基礎学力の定着や、豊かな心を育成し、児童一人一人のよさを伸ばし、夢や希望を育むとともに、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指し、組織としての取組を強化しながら、特色ある教育課程の編成に努める。

【留意点】

- ・学校経営の理念及び方針を受け、全教育課程において意図的・計画的・系統的・横断的にその具現化を図る。
- ・具現化のために、各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間など教育課程相互の配置のバランスを図るとともに各教科の関連付けを図りながら、時数を確保する。
- ・計画的でありながら重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的で、教育活動規模等について調和のとれた実施計画を作成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- ・「地域とともにある学校」を目指し、地域学校園，保護者，地域，各種団体との「つながり」を深めながら、地域の教育力を生かした教育活動の工夫・充実を図る。
- ・すべての教職員が、主体性と想像力をもって個人の力を発揮し、「和」を大切にしながら、信頼と協力を満ちた明るく開かれた学校づくりに努める。
- ・勤務時間を考慮した時間設定やメリハリのある働き方ができる学校組織のマネジメントを重視し、校内組織力の強化を図る。（姿川第一小学校教育課程構造図の活用）

（2）学習指導

- ・主体的に聴き、伝え、ともに学び合う授業づくり
○学びをつなぎ生かす授業の実践と家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫

（3）児童生徒指導

- ・思いやりの心をもち、望ましい集団づくりを目指した学級経営の充実
○集団のきまりやマナーを守ることのできる児童・生徒の育成

（4）健康（保健安全・食育）・体力

- ・運動の楽しさや健康でいることの大切さが実感できる体育指導の充実と健康教育の推進
○自ら進んで健康の保持増進に努め、体力を高めようとする児童・生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	○宇都宮版「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を図ることで、児童が「分かる」「できる」授業に努める。 ○児童が「やってみたい」「知りたい」という導入や課題の工夫をすることで、課題解決への意欲をもたせる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 91% ・宇都宮モデルを意識して分かる・できる授業に努めることで、主体的な態度で学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ○引き続き、宇都宮版「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を図ることで、児童が「分かる」「できる」授業に努める。

1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思い やりの心をもって優しく接し ている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	○縦割り班や異学年交流活動、なかよ しタイムを継続していき、思いやり の心の育成に努める。 ・授業中は「さん」づけで呼び合うこと と、相手の気持ちを考えて「ほかほか 言葉」を使うことを教職員自ら率先 して行ったり推奨したりする。 ・学級において係活動や当番活動を工 夫し、教員が積極的に児童のよさに 目を向けることを通して、望ましい 人間関係作りに努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 90.0% ・授業中は「さん」づけで呼ぶことや丁寧な言葉で話せる児童が多い。しかし、休み時間等では、乱暴な呼び方や言葉遣いをしてしまう場面も見られた。 【次年度の方針】 ○温かい言葉遣いについては、学校全体で具体的な取組について共有・実践を行い、意識の向上と定着を図っていく。さらに、縦割り班清掃やなかよしタイムでの異学年の交流を充実させ、思いやりの心の育成に努める。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・学習課題やめあてを明確にするとともに、事後の振り返りを行い、児童の取り組みを具体的に認め、誰もが達成感をもてるようにする。 ・キャリアパスポートを活用し、記録の積み重ねや振り返りをする中で、児童が自己の生き方を真剣に考えられるようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 89.1% ・児童と共にめあてを設定し、目標を明確にしたり、事後の振り返りをしたりすることで、活動への意欲や達成感をもたせることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の自己肯定感を高められるように、あらゆる教育活動を通して児童の頑張りや成長を認め励ます指導に努める。

A 4 児童は、健康や安全に
気を付けて生活してい
る。
【数値指標】
全体アンケート
「私は、健康や安全に気を付
けて生活している。」
における肯定的回答
⇒保護者 85%以上
⇒教職員 85%以上

- ・児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、「生活チェック表」や衛生検査等を通して、基本的な生活習慣や衛生面について指導する。また、給食後の歯磨きや「歯と口の健康週間」「いい歯の日」等の行事に合わせた活動、家庭での歯磨きチェック等を通して健康への意識を高める。
- ・「お弁当の日」などを通して、食事の重要性について指導する。食の大切さを啓発するために、食育だよりの発行や「一口メモ」の活用を継続して行っていく。
- ・危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施するとともに、事前事後指導を確実に行う。また、避難訓練カードを有効に使い、振り返りの時間も設ける。
- ・日常生活の中での安全指導（廊下の歩き方、校庭の遊び方のルールなど）を徹底するために、掲示資料を使い、啓発に努める。
- ・安全な登下校の方法について、毎月の登校指導の際に気付いた児童の様子や注意事項などを教職員間で共有する。また、自転車の安全な乗り方とヘルメットの着用等、交通安全について繰り返し指導を行うとともに家庭との連携も図っていく。
- ・「元気っ子健康体力チェック」やミニマムの結果を踏まえて、体育の授業において、遊具を利用したサーキット等を実践し、補強運動の工夫や「うつのみや元気っ子チャレンジ」への挑戦などを通して、苦手としている投力や敏捷性の向上に努める。
- ・体力向上に向けて、授業の進め方や展開の工夫について教員間で共有していく。家庭でもできる運動については、長期休業期間中のチャレンジカード等を使用して、啓発に努める。
- ・持久力を高めるための5分間走を継続して実施していく。サーキットの実施方法について、掲示物等を使いながら、学校全体で共通理解を図る。
- ・放課後、積極的に運動をするように各学級で促したり、学級懇談会等で家庭と共通理解を図ったりして、意識を高める。また、業間や昼休みは、外遊びを積極的に推奨する。

B

- 【達成状況】
- ・保護者の肯定的回答 90.4%
 - ・教職員の肯定的回答 100%
 - ・地域学校園共通取組の姿勢チェックや長期休業明けの生活チェック、週1回の衛生検査等を実施し、基本的な生活習慣や衛生面について、児童の意識を高めることができた。
 - ・お弁当の日、おにぎりの日は振り返りカードを活用しながら十分に実施することができた。また、学校全体としての給食の残菜は少なかった。
 - ・今年度は4回の避難訓練を実施し、安全への意識を高めた。発達段階に応じた振り返りカードの活用を今後も継続する。
 - ・日々の指導により、廊下の歩行や遊び方のルールは定着しつつある。
 - ・登校指導や下校指導で、児童への安全に関する意識を高め、啓発に努めた。自転車免許授業での指導が非常に効果的であった。
 - ・サーキットトレーニングや5分間走を授業の導入に取り入れることで、体力向上に努めた。また、業間や昼休みは、外遊びを積極的に推奨した。
 - ・長期休業中に体力向上につながる運動を紹介し、学習カード等を用いて運動への意識を高めた。
- 【次年度の方針】
- ・生活チェックや衛生検査等を継続して実施し、健康の保持増進に努めるとともに、児童の生活習慣の状況を学校と家庭の双方向で把握し、改善に向けて連携して支援を行う。
 - ・家庭でもできる運動について、長期休業期間中のチャレンジカード等を使用して、啓発に努める。
 - ・体育委員会の企画や、ワークシート等を用いて、各学級で積極的に運動をするように促す。
 - ・運動することの良さを伝え、業間や昼休みは、外遊びを積極的に推奨する。
 - ・毎日の給食の時間における各学級の指導や、給食委員会の放送などを通して食への関心を高めたり、食事の重要性について指導したりする。保護者への啓発として、食育だよりの発行を継続していく。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・児童の自己肯定感を高められるように、あらゆる教育活動を通して児童の頑張りや成長を認め励ます指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、記録の積み重ねや振り返りを行うことで、児童が自己の生き方を真剣に考えられるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 88.6% ・児童相互に認め合う場を意図的に設けたことで、児童の自己肯定感が高まった。 ・児童の頑張りや成長を認め励まし、活動への意欲をもたせたり、成長を実感させたりすることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の自己肯定感を高められるように、あらゆる教育活動を通して児童の頑張りや成長を認め励まし、周りと協力し合えるように指導する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・外国語活動（英語活動）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。 ・教師や ALT と 1 対 1 でやり取りする機会を多く設けることで、英語を使ったコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100% ・児童の関心が高まるような教材の工夫や ALT との交流の機会を増やしたことにより、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。 ・児童自身の体験や思いを英語で表現したり、教師や ALT、クラスメイトに英語で尋ねたり、聞き取ったりすることができた。 【次年度の方針】 ・外国語活動（英語活動）を授業だけではなく、休み時間等にも行うことを通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・社会科や総合的な学習の時間を中心に、児童が宇都宮市の良さに気が付くように指導する。 ・宇都宮学の副読本や地域の資料や様々な体験活動を有効に活用し、児童が宇都宮市の魅力について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 88.4% ・国語科や社会科、総合的な学習の時間を中心に児童が宇都宮市の良さに気づいたり、町をさらに良くするにはどうすればよいか考えたりすることができた。食育での指導も効果があった。 ・宇都宮学の副読本や地域の資料や様々な体験活動を有効に活用することを通して、児童が宇都宮市の魅力や歴史について理解を深めることができた。 【次年度の方針】 ・社会科や総合的な学習の時間をはじめとした授業、食育などを通して、児童が済んでいる学区や宇都宮市の良さに気が付くように継続して指導していく。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を 学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・授業や家庭学習等においてタブレッ トを活用することで、児童の ICT 機 器を活用する力と情報活用能力を育 んでいく。 ・授業内容に関連した教育図書を積極 的に活用するとともに、読書の時間 や読み聞かせの時間を通して、児童 の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 87.8% ・一人一台タブレットを授業や家庭で活 用することで、適切に活用する力を身に 付けることができた。 ・各教科の単元に合わせて、関連する資 料や書籍を用意し環境を整えたので、児 童がすぐに活用できた。 【次年度の方針】 ・授業や家庭学習等においてタブレッ トを活用することで、児童の ICT 機器を活 用する力と情報活用能力を育んでいく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」に ついて、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・委員会活動において、リサイクル活 動に取り組む意義やリサイクルさ れた物がどのように活用されてい るのか、児童に周知し、環境問題へ の関心を高めるように努める。 ・社会科を中心に様々な教科におい て災害や地球規模での環境問題に ついて取り上げることで、児童が切 実感をもって環境問題や防災につ いて考えられるように努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 89.2% ・環境委員会の活動において、SDGs の取 組を呼びかけたことで、環境への意識を 高めることができた。 ・教科等で学習したことで、環境問題に ついて様々な知識が身に付き、日常生活 への取り組みにつながってきている。 【次年度の方針】 ・委員会や教科等での学習を通して、環 境問題への関心を高める。 ・各教室にプラスチックゴミ分別用の ボックスを設置し、資源や物を大切にす る意識を高める。 ・クラス毎にできないことがないか話し 合い、自分事として問題を捉えられるよ うにする。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童の実態に応じ て、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・特別支援教育コーディネーターや児童指 導主任を中心に、迅速にケース会議など を行い、全校で特別な支援が必要な児童 に関する共通理解を図り、一人一人の ニーズを踏まえた支援を組織的に 行う。 ・特別支援学級の児童はもとより、通 常学級においても、必要に応じて個 別の支援計画を作成し、それに基づく合 理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100% ・それぞれが個々に適した支援をしてい ると思われる。 ・困難な問題に対し、ケース会議を早期 に開催して対応している。 【次年度の方針】 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導 主任を中心に、迅速にケース会議などを行 い、全校で特別な支援が必要な児童に関す る共通理解を図り、一人一人のニーズを踏 まえた支援を組織的に行う。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上	・児童の描いた「いじめゼロポスター」を使った年間を通しての啓発、いじめゼロ集会や学年集会等でのいじめ防止についての指導などにより、互いを思いやることの大切さについて考える場を設定する。 ・いじめ撲滅についての協力を得るため、学校の取組について各種たよりやHPで保護者や地域住民への継続した周知に努める。 ・職員打合せ等での児童についての情報交換や定期的な児童指導部会の開催、教育相談、アンケート調査、Q-U検査、日常生活の観察等を通して、児童の実態把握、いじめの早期発見・早期解決に努める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 82.7% ・児童会が中心となった「いじめゼロ集会」を実施し、その様子をHPに掲載した。また、道徳や学級活動の時間を通して、児童が主体的にいじめについて考える場を設け、いじめが許されない行為であるという思いをもつことにつながったが目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・年間を通しての啓発、いじめゼロ集会でのいじめ防止についての指導により、互いを思いやることの大切さについて考える場を設定していく。 ・職員打合せ等での児童についての情報交換や定期的な児童指導部会の開催、教育相談、アンケート調査、Q-U検査、日常生活の観察等を通して、児童の実態把握、いじめの早期発見・解決に努める。 ・学習や生活の決まりなどのルールを、学校全体で再確認し、日頃から教職員が連携して指導を行うことで、児童が安心して生活できる環境を築いていく。 ・いじめ撲滅についての協力を得るため、学校の取組について学校だよりや学年だより、HPで保護者や地域住民への継続した周知に努める。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・児童の自己肯定感を高められるよう、朝の会や帰りの会を活用して児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も児童の頑張りや成長を認め励ます指導に努める。 ・毅然とした指導の後は、自己否定感につながらないような適切なフォローに心がける。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 92.7% ・学級活動や、朝の会・帰りの会等で、児童が自他のよさについて伝えたり振り返ったりすることで、頑張りや成長を相互に認め合うことができた。 【次年度の方針】 ・構成的グループエンカウンター的手法を取り入れながら、学年学級の間関係づくりに努める。 ・職員打合せ等での児童についての情報交換や定期的な児童指導部会の開催、教育相談、アンケート調査、Q-U検査、日常生活の観察等を通して、児童の実態把握に努めながら、課題の早期発見と解決を図る。 ・教職員も児童の頑張りや成長を温かい言葉で認め励ます指導に努める。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談にのってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・集会活動では、一人一台端末を使うことで活動内容の幅を広げ、さらに児童主体の活動となるように支援していく。 ・毎週水曜日のロング昼休みは、引き続き「クラス遊びの日」として担任も一緒に遊び、よりよい学級づくりのために楽しい活動にしていこう。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.8% ・集会活動では、児童が主体的になった活動を多く実施することができた。さらに、端末を使用して形態を工夫することで、活動を充実させることができた。また、ロング昼休みの共遊は、学級づくりに効果的であった。 【次年度の方針】 ・毎週水曜日のロング昼休みは引き続き「クラス遊びの日」として、担任も一緒に遊び、よりよい学級づくりのために楽しい活動にしていこう。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやす く、一人一人に丁寧に教えて くれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・デジタル教科書や一人一台端末を有 効に活用することで、個別最適な学 びができるようにする。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実践 し、課題設定やまとめ・振り返りなど の活動が子供の学びを深めることに つながるよう努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 94.6% ・学習のめあてを明確にし、本時で行う ことをはっきり理解させたことで、課題 解決への意欲を持たせることができた。 ・デジタル教科書や一人一台端末を効果 的に活用し、学力の向上に役立てた。 【次年度の方針】 ・デジタル教科書や一人一台端末を有効 に活用することで個別最適な学びがで きるようにする。 ・配慮を要する児童に対して、個別に声 を掛けたり、各児童に合った課題を設定 したりして分かる授業を目指す。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチ ームとなり、協力して業務に 取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・情報の共有や共通理解を図り、同一 歩調で指導にあたれるよう、学年会 や学年主任会を継続して実施する。 ・情報の共有化のために、情報主任は 共用フォルダの整備とデータの引 継ぎを実施していく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100% ・学年会や学年主任会を実施し共通理解 を図ったことは、協力して業務に取り組 む上で有効であった。ミライムのコメン ト機能やクラスルームの活用は業務の 効率化につながった。職員室は明るく風 通しが良い雰囲気があり、全職員がチ ームとなって業務に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・引き続き情報の共有や共通理解を図 り、同一歩調で指導にあたれるよう、学 年会や学年主任会を継続して実施する。 更なるミライムやクラスルームの活用 を図り、時間の効率化を進める。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を 意識して、業務の効率化に取 り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・活動のねらいを見直し、学校行事等の 精選を図る。 ・引き続き勤務時間の意識改革を図り、 全教職員が退勤時刻を意識して計画 的に業務を進められるよう、学年等 で声をかけ合う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 89.7% ・掲示板の活用や職員会議資料のデー タ化によりペーパーレス化が図られてい る。 ・学年で協力し合って業務を進めること ができた。 ・行事を精選しながら実施することがで きた。 【次年度の方針】 ・勤務時間の意識改革を図り、全教職員 が退勤時刻を意識して計画的に業務を 進められるよう、学年等で声をかけ合 う。 ・引き続き行事の精選を図っていく。 ・リフレッシュデーや登校指導時の勤務 時間調整などを確実に実施できるよう、 事前に声を掛けることで退勤時刻を意 識付ける。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・実施内容の精選により、無理のない小中一貫・地域学校園の取組を行っている。 ・小中一貫教育推進主任としっかり連携し、無理のない回数で乗り入れ授業を実施する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.4% ・中学生の運動会のボランティアを継続することができ、合同あいさつ運動を実施したり、宮っ子チャレンジを受け入れることで中学生との交流を行うことができた。また、6年生の乗り入れ授業も実施できた。 【次年度の方針】 ・実施内容の精選により、無理のない小中一貫・地域学校園の取組を行っている。 ・校内の掲示板や学校だより、HP などを通して地域学校園の活動の様子を周知していく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	・生活科や総合的な学習の時間での支援や学習環境の整備などに外部講師や学校支援ボランティアを有効に活用し、教育活動の充実に努める。 ・PTAや魅力ある学校づくり地域協議会と連携・協力し、学校教育活動の充実に努める。 ・具体的な取組について、学校だよりやHP などを通して積極的に情報発信を行う。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 92.3% ・地域住民の肯定的回答 100% ・魅力ある学校づくり地域協議会と連携・協力して、校外学習引率等の学習支援やフジ剪定、除草作業等の環境整備を行い、充実した教育活動に大変有効であった。 【次年度の方針】 ・外部講師を招いたりオンラインを活用したりするなど、各学年の発達段階に応じて外部講師（企業等）を取り入れた授業に取り組み、更なる充実した教育活動に努める。 ・引き続き学校だよりやHP などを通して活動の様子を積極的に情報発信する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上	・毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 90.8% ・安全点検を月に1度実施し、修繕が必要な箇所は迅速に対応した。 ・避難訓練は、様々な事態を想定して実施し、避難の心構えと命を守ろうとする意識を高めた。 ・熱中症及び感染症について、迅速に状況を学校全体に周知し、拡大防止に努めた。 【次年度の方針】 ・毎月、チェック項目に基づく安全点検後の迅速な対応を継続する。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理を継続する。

6-(2) 学校のデ ジタル化推 進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワ ークの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業や業務にデジ タルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・授業や授業準備等において、教職員 自身が、積極的にデジタル（一人一 台端末・学校用グループウェア・校 務支援システム・デジタル連絡ツ ール・さくら連絡網）を活用するよ うに努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100% ・あらゆる学習の場で ICT 機器を効果的 に活用することができた。また、研修会 でも情報交換に役立てることができた。 ・さくら連絡網を使つての保護者とのや り取りは、学校理解を図る上で効果があ った。 【次年度の方針】 ・研修会で得た情報や資料を共有し、各 担任が実践していく。
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあ いさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	・教職員が率先して、明るいあいさつ や会釈が行えるように声かけを行 う。 ○児童会主催のあいさつ運動の方法 を工夫する。地域と連携した取組を 継続して展開するとともに、学校だ よりや学年だより等で地域学校園 や児童会によるあいさつ運動の様 子や成果などについて発信するこ とに努め、学校内だけでなく、登下 校の際の元気な挨拶の習慣化を図 る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 88.4% ・地域住民の肯定的回答 78.6% ・会釈など場に応じた挨拶を行うことも 推奨するなどして、校内では、挨拶がで きる児童は増えてきている。地域でのあ いさつについては課題がある。 【次年度の方針】 ・教職員が率先して明るいあいさつや会 釈を行ったり、声かけを行ったりする。 また、一斉下校の場や、学年や学級で、 地域での挨拶について継続的に指導を していく。 ○児童会主催のあいさつ運動の方法を工 夫する。地域と連携した取組を継続して 展開するとともに、学校だよりや、学年 だより等で地域学校園や児童会による あいさつ運動の様子や成果などにつ いて発信することに努め、学校内だけ でなく、登下校の際の元気な挨拶の習慣化を 図る。
	B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを 守って、生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	・合言葉「なかよく かしくく げん きに がんばる 姿一の子」の努力 点を学級活動等で積極的に活用す るなどして、安心安全な学校生活 を送ることができるよう指導に当た る。 ○廊下・階段の歩行、トイレの使い 方など集団生活に必要なきまりにつ いて、学級指導を中心に日常生活の 中で確認し合ったり、ルールの必要 性について児童とともに考えを深 めたりしていく。職員会議後の児童 指導情報交換では、職員一人一人の 意見を交換し、一つ一つの案件に対 し、共通理解を図っていく。 ○生活目標をもとに共通徹底指導事 項を確認し合い、全教職員共通理解 のもと、生活指導にあたる。特に安 全・衛生に関わることは、常時実態 を観察し、必要があれば個別指導し ていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 92.9% ・教職員の肯定的回答 92.3% ・安全な廊下・階段の歩行の仕方、正しい トイレの使い方を意識しながら行動す る児童が多いが、個人差も見られる。 ・学校全体で共通した生活目標と、クラ スの実態に合わせた生活目標を決める ことによって、意識しながら生活で きるようになった。 【次年度の方針】 ○廊下・階段の歩行、トイレの使い方な ど集団生活に必要なきまりについて、学 級指導を中心に日常生活の中で、確認し 合ったりルールの必要性について児童 と共に考えを深めたりしていく。 ・職員会議後の児童指導会議では、一つ 一つの案件に対し、共通理解を図って いく。

B3 児童は、自分のよいところに自信を持ち、自己肯定感をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	・児童の自己肯定感を高められるよう、朝の会や帰りの会を活用して児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も児童の頑張りや成長を認め励ます指導や保護者への発信に努める。 ・授業の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したこと、身に付けたことを自覚できるような自己評価、相互評価の場を設ける。 ・毅然とした指導をした後は、不必要な自己否定感をもつことがないようにフォローに心がける。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 82.6% ・保護者の肯定的回答 84.9% ・児童がお互いに認め合う場や、教職員が児童の頑張りや成長を学級や学校で伝えたりする場を意図的に設け、児童の自己肯定感を高めよう努め、昨年度より肯定回答率は高まってきたものの、目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ・児童の自己肯定感を高められるよう、朝の会や帰りの会を活用して児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も児童の頑張りや成長を認め、励ます指導や保護者への発信に努める。
B4 児童は、マナーを意識した食生活をしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は、食事のとき、心をこめて「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをし、正しい姿勢で食べている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	○マナー強化週間を実施し、マナーの振り返りをすると共に、学級活動における掲示資料等を使った指導、日常の給食指導など継続した指導をすることで、食事の挨拶やマナーの大切さについて理解を深めていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 90.6% ・6月にマナーチェックを実施し、マナーチェックシートの活用によって意識の向上が見られた。掲示資料や毎日の放送により、食に関する知識や正しい食事マナー等の食育指導を行った。 【次年度の方針】 ○マナー強化週間を実施し、マナーの振り返りをするとともに、学級活動における掲示資料等を使った指導や担任による給食指導、給食委員会の放送の際、一口メモでのマナーの呼びかけ等、継続した指導をすることで、食事のあいさつやマナーの大切さについて理解を深めていく。
B5 自ら考え、自分の思いを生き生きと表現する児童を育成している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを言葉で伝えている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	・教師と児童、児童と児童の対話を大切にしながら、児童のつぶやきを授業に生かすことで、生き生きと自分の考えを表現する児童の育成に努める。 ・「話を聞いたらあいうえお」や「学びをつなごう」の学習掲示を活用して、自分の考えを表現したり、コミュニケーションを図ったりする力をさらに育成できるよう努める。 ・ペアで自分の考えを伝え合った後、小グループ内で話し合いを行い、その後に学級全体で発表する等、段階を踏むことで児童の自分の思いを表現する力の育成に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 85.7% ・教職員の肯定的回答 100% ・対話的な学びを大切にすることで、思ったことを伝えたり、聞いたりする児童の姿が見られた。 【次年度の方針】 ・教師と児童、児童と児童の対話を大切にしながら、児童のつぶやきを授業に生かすことで、生き生きと自分の考えを表現する児童の育成に努める。 ・ペアやグループなどの学習形態の工夫を行うことで、児童が話しやすい環境を設定する。 ・朝の会や帰りの会等で児童が発表する場面を意図的に増やす。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

＜学校運営＞

○地域の教育力を生かした教育活動の充実や開かれた学校づくりの推進に意識して取り組むことができた。アンケート結果において、教職員・保護者・地域住民・児童とも肯定的回答が、ほぼ目標値を上回った。今後も、特色ある教育活動を展開するために、地域と協働した開かれた学校づくりの推進に努めるとともに、勤務時間を意識しながらの業務の効率化を図っていく。

＜本校の特色＞

- ・魅力ある学校づくり地域協議会の学校支援ボランティアや見守り隊など多くの地域の方々や外部人材の協力をいただき、児童の学習や活動、安全の充実が図られている。今後も「地域に開かれた学校」を目指して取り組んでいく。

＜学習指導＞

- ・「持続可能な社会」については改善が見られ、肯定的回答の数値が向上した。環境教育や安全教育等を通して、関心を高められるような取り組みを引き続き継続していく。
- ・「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」については、保護者の肯定的回答が昨年度より向上したが、市平均は下回った。引き続き、児童が主体的な学習態度をもつことができるよう日々の教材研究や研修などで、教職員の授業力向上を図っていく。

＜生活指導＞

- ・挨拶をする児童を育てるために、児童会主体による校内のあいさつ運動、及び魅力ある学校づくり地域協議会と協働によるあいさつ標語の募集を実施した。地域での挨拶についてもまだ個人差があるため、学校内だけではなく、登下校の際の元気な挨拶の習慣化を図るなど、時と場に応じた挨拶について、粘り強く指導していく。
- ・きまりやマナーを守って生活をしている児童が多いが、個人差が見られる。学校内だけではなく、登下校の仕方や公共の場での遊び方など、校外においても安全な生活が送れるよう指導するとともに、家庭との連携も図っていく。

＜健康（体力・保健・食・安全）＞

- ・体力については、サーキットトレーニングや5分間走を授業の導入に取り入れることで、児童の体力向上に努めた。長期休業中に体力向上につながる運動を紹介し、学習カード等を用いて運動への意識を高めた。
- ・学校保健については、地域学校園共通取組の姿勢チェックや、長期休業明けの生活チェック、週1回の衛生検査等で、基本的な生活習慣や衛生面について指導し、意識を高めることができた。今後も、保健衛生面での指導や啓発に努めていく。
- ・学校給食については、お弁当の日とおにぎりの日を振り返りカードを活用しながら実施することができた。また、学校全体としての給食の残菜は、少なかった。
- ・学校安全については、4回の避難訓練を実施し、発達段階に応じた振り返りカードの活用を図ることで、安全への意識を高めた。交通安全については、登校指導や下校指導において児童への安全に対する意識を高めさせ、啓発に努めた。また、市主催の交通安全教室や自転車免許事業での指導が非常に効果的だったため、今後も連携を図っていく。

7 学校関係者評価

- ・各学年の要望に応じた学校支援ボランティア活動ができた。読み聞かせボランティアにおいては、保護者の参加が増え、実施できた学級が増えた。今後は、他のボランティア活動においても、参加人数を増やす方法を工夫していきたい。
- ・見守り活動ボランティアを実施し、大きな事故無く1年を終えることができた。朝の登校時の挨拶は、元気がない様子が見られたが、引き続き、学校と地域協議会が連携して、挨拶の大切さを啓発していきたい。
- ・昨年同様、親子料理教室が実施できて大変良かった。今後も、継続して実施してほしい。
- ・文化財に指定されている本校のフジ樹木の剪定作業に協力できた。作業用の用具をさらに補充し、保存活動に努めていきたい。
- ・PTA文化祭では、昔遊びなどで協力できてよかった。たくさんの子供たちや地域の方々に来場していただき、楽しんでもらうことができた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

＜学校運営について＞

- ・地域学校協働活動推進員と連携して、学校支援ボランティアを募集し、地域の教育力を生かした教育活動の充実や開かれた学校づくりの推進に今後も努める。
- ・引き続き学校ホームページを有効活用して、学校での様子を含め、地域や企業と連携した活動状況も積極的に発信していく。

＜学習指導について＞

- ・児童の自己肯定感を高められるよう、授業中や朝の会・帰りの会の時間を活用して児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も児童の頑張りや成長を認め励ます指導や保護者への発信に努める。
- ・教師と児童、児童と児童の対話を大切にしながら、児童の貴重な意見や気づきを授業に生かすことで、生き生きと自分の考えを表現する児童の育成に努める。
- ・デジタル教科書や一人一台端末を有効に活用することで、個別最適な学びができるように努める。

○引き続き、宇都宮版「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を図ることで、児童が「分かる」「できる」授業に努める。

＜生活指導について＞

- 「あいさつ」については、教職員が率先して明るい挨拶や会釈を行ったり、声かけを行ったりする。また、学校ホームページや学校だより等で地域学校園や児童会によるあいさつ運動の様子や成果などについて発信することに努めるとともに、地域と連携を図りながら、登下校の際の元気な挨拶の習慣化を図る。
- ・集団生活に必要な決まりについて、学級指導を中心に確認していくとともに、登下校の仕方や公共の場での遊び方など、校外においても安全な生活が送れるよう指導に当たっていく。
- ・いじめ対策については、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法を生かしながら、望ましい人間関係づくりに努める。また、年間を通しての啓発、いじめゼロ集会でのいじめ防止についての指導により、互いを思いやることの大切さについて考える場を設定していく。さらに、職員打合せ等での児童についての情報交換や定期的な児童指導部会の開催、教育相談、アンケート調査、Ｑ－Ｕ検査、日常生活の観察等を通して、児童の実態把握、いじめの早期発見・解決に努める。

＜健康（体力・保健・食・安全）について＞

- ・生活チェック表や衛生検査等を実施することで児童自ら健康を管理する資質・能力を育成するとともに、児童の生活習慣の状況を学校と家庭の双方向で把握し、改善に向けて連携して支援を行う。
- ・体力向上に向けて、授業の進め方や展開の工夫について教員間で共有していく。家庭でもできる運動については、長期休業期間中のチャレンジカード等を使用して、啓発に努める。積極的に運動をするように体育委員会の企画や（持久走・長なわとび・短なわとび等）ワークシート等を用いて、各学級で促したり、学級懇談会等で家庭と共通理解を図ったりして、意識を高める。また、業間や昼休みは、外遊びを積極的に推奨する。
- ・健康に気を付けて生活できるよう、けがや事故、熱中症や感染症の予防対策など、保健委員会の活動を取り入れながら、保健指導を継続する。
- ・毎日の給食の時間における各学級の指導や、給食委員会の放送などを通して食への関心を高めたり、食事の重要性について指導したりする。保護者への啓発として、食育だよりの発行を継続していく。
- ・危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施するとともに、事前事後指導を確実に行う。また、避難訓練カードを有効に使い、振り返りの時間も設ける。